

台桜の魅力を徹底解剖

②異年齢・小学校・地域とつながれる

社会の中で生活する上で欠かせない「つながり」。台桜幼稚園の園児は、同じ年齢の友達だけでなく老若男女、様々な人とかかわることができます。今号では、入園してから修了を迎えるまでの数年間にじわじわと実感が増してくる台桜幼稚園の魅力を「つながり」という観点から紹介します。幼稚園生活を具体的にイメージする材料にしていただけると嬉しいです。



担当：かんの



②の1 異年齢の児童と遊べる

違う学年の子同士が遊ぶのは日常茶飯事。年長の子が年下の子に優しくしたり、年少の子が年上の子を真似して新しいことに挑戦したり……。自然と異年齢の触れ合いが生まれる環境は大きな魅力です

学年間の壁なく遊べる関係性

年少と年長では体格も発達も大きな差がありますが、一緒に鬼ごっこをすることも。互いに負担なく楽しめるように先生もサポートしてくれます。

また未就園児と遊ぶ時には、年少組が年下の子たちに親切にしている場面も。

遊戯室を中心にして各部屋が緩やかにつながっていることも、こうした関係性を育むのによい影響を与えているように感じます。

年下のお世話を通して自信に

年長組になると色々な役割が任されます。年少組の朝の支度を手伝ってあげるのもその一つ。園服を脱いでロッカーにかける、水筒やコップ袋を出すなど、付き添って教える姿はとても頼もしいです。

また地域散策などの外出時には年下の子とペアになり、手をつないで歩きます。

このようにして、責任感や自信を身に付けていくことができます。



(左上) 大きな積み木で家を作り、年中組の女兒と年少組の男児が一緒にままごと。お面は各自手作り。お面をかぶって好きな動物になりきる遊びも人気。(上) 年長組がオープンした縁日に招待された年少組。手作りヨーヨーを夢中で釣り上げる。(左) 異学年混合チームで玉入れ合戦



年少組の子たちを見守る姿はすっかりお兄さん、お姉さん





②の2 小学校とつながれる

学校の施設を使わせてもらえるだけでなく、児童や先生とも交流できます。日常的に小学校とかかわる中で「幼稚園の次に行くのはどんなところか」を体感できる分、新1年生となる心の準備がしやすくなります

小学生との交流

主に休み時間を利用して幼稚園に遊びに来てくれるのは、翌年度最上級生となる小学5年生。絵本を読み聞かせたり、折り紙を教えてくれたりします。体育館で走り方を教えてくれたこともありました。



出張授業や交流給食

年長になると、小学校入学に向けた取り組みが増えていきます。「交流給食」と称して月に1回小学校の給食が食べられるほか、帰りの会で校長先生や副校長先生が話しに来てくれます。



校庭や体育館で全力疾走

週に1回以上は校庭や体育館へ。子どもたちは大はしゃぎで走り回ります。冬には校庭で凧揚げも。また秋の運動会は体育館で行われるので天候の心配もありません。

(左上) 5年生の折り紙教室。手の込んだ作品を園児たちにくれることも。(右上) 小学生のように並んで給食を受け取る年長組。栄養士による講習も行われる。(左下) 校長先生の話を真剣に聴く年長組の子たち。(右下) 階段を上がって屋上の校庭へ。園舎と校舎はつながっているので移動も安心



②の3 地域の人とかかわれる

台桜幼稚園の子どもたちは外出できる機会に恵まれています。お出かけの日がわかると何日も前からわくわく。交通ルールを確認しながらの「ちょっとした冒険」によって、子どもたちは地域とのつながりも得られます

地元の商店や施設を訪問し、地域交流

地元のスーパーや老舗千代紙店に買い物に出かけたり、近くの木工所や郵便局、老人ホームを訪れたり……。こうした活動を通して地域とのつながりが深まり、地元の人たちからも子どもたちの成長を見守ってもらえているような気がします。



スーパーでカレーの材料を調達

年長組の一大イベント「獅子舞」

台桜名物ともいえる「獅子舞」も地域とのつながりに支えられています。子どもたちを毎年指導してくれるのは、谷中にある人気旅館の若旦那。このような幼いうちに伝統芸能に親しめる機会はとても貴重なことと感じています。



自作の金獅子をかぶって舞を披露する子どもたちの姿に拍手喝采